

令和3年(2021年)1月1日発行

2021年 年頭の辞

学生の成長を全力で支援

「パンデミック」、1年前には聞き慣れていたなかったこの言葉に翻弄された2020年が終わり、新しい年を迎えました。皆さんがこの稿をご覧になっているひと月後がどのような状況かも全く予想ができません。そんな先が見通せない時代を我々は生きています。現時点ですら6000万を超える感染者が世界で報告される状況を誰が予測できたでしょうか。唯一の救いは、人口100万人当たりの死者数が、日本は15.8人と米英仏伊やブラジル等の約800人に対し50分の1に抑えられていることです。しかし、日本だけが収まっても経済は元には戻りません。今年はワクチンの接種が本格化すると思えますが、様々な格差を乗り越え

どのように世界の人々に行き渡らせることができるのか、まさに人類の叡智が試される1年となるでしょう。大学は、遠隔授業での対応や感染対策を施した実験・製図・ゼミ科目の対面授業の実施など、状況を判断しながらできる限りの対応に取り組んで参りました。メールでの個別対応が可能な遠隔授業では、同調圧力を気にせず質問がし易くなり、レベルに応じた課題を個別に提示できるなど、意欲の高い学生にとっては対面授業以上の成長につながっているという発見もありました。このような点も踏まえアフターコロナでどのような教育体制を構築するのか、教育効果の把握も含め、それが本学にとっての今年の大きな課題です。



学長 成田 健一

今年の4月から大学は2030年に向けた新たな中長期計画をスタートさせます。昨年度本学は設立以来の建学の精神を改訂しました。そこでも再確認された実工学の伝統を継承しつつ、変化が加速する未来に向けて教育の自身は不断に改革していく。「実工学新時代」-変わる教育、変わらない理念、というビジョンはその姿勢を表したものです。専門力を社会に活かす経験を通して学生を成長させるための活動拠点「人と暮らしの支援工学センター」も昨年立ち上げました。中長期計画の成否は、教職員全員がその理念を共有し、自分ごととして取り組めるにかかっています。皆様のご協力を改めてお願い申し上げます。

模索の時代に、工学の力を



理事長 柳澤 章

2021年を迎えました。今年は良い年にしたい。そう願う人が、いつもにもまして多くのごとでしょう。また、世界の思いでもあるでしょう。昨年はコロナ一色で、混沌と戸惑いと困難の1年でした。ワクチン開発に期待が寄せられますが、日々の活動は「正しく恐れる」ことを忘れずに、皆さまのこの1年がよきものとなることを祈念いたします。

工学を、理論とともに実践的に習得することを理念とする日本工業大学に、登校が不自由であることは厳しい事態です。教職員は工夫を凝らし、教育の質を確かなものとするに力を注いでいます。学生の皆さんにおいてもオンライン授業は

「模索の時代」に、工学の力を活かすことが重要です。昨年はまさに模索とチャレンジの年でした。ビジネスの世界では、生き残りをかけたソーシャル・ディスタンスを前提とした新商品と新たな販売方法が次々と開発されました。また、人々の巣籠生活の中での変容の一つに、インターネットを通してラジオを聴く若者が増えてきたという調査結果もあります。こうした模索に、かたちあるものを提示、提供する力を持っているのが、工学です。

「模索の時代」に、工学の力を活かすことが重要です。昨年はまさに模索とチャレンジの年でした。ビジネスの世界では、生き残りをかけたソーシャル・ディスタンスを前提とした新商品と新たな販売方法が次々と開発されました。また、人々の巣籠生活の中での変容の一つに、インターネットを通してラジオを聴く若者が増えてきたという調査結果もあります。こうした模索に、かたちあるものを提示、提供する力を持っているのが、工学です。

「模索の時代」に、工学の力を活かすことが重要です。昨年はまさに模索とチャレンジの年でした。ビジネスの世界では、生き残りをかけたソーシャル・ディスタンスを前提とした新商品と新たな販売方法が次々と開発されました。また、人々の巣籠生活の中での変容の一つに、インターネットを通してラジオを聴く若者が増えてきたという調査結果もあります。こうした模索に、かたちあるものを提示、提供する力を持っているのが、工学です。

「模索の時代」に、工学の力を活かすことが重要です。昨年はまさに模索とチャレンジの年でした。ビジネスの世界では、生き残りをかけたソーシャル・ディスタンスを前提とした新商品と新たな販売方法が次々と開発されました。また、人々の巣籠生活の中での変容の一つに、インターネットを通してラジオを聴く若者が増えてきたという調査結果もあります。こうした模索に、かたちあるものを提示、提供する力を持っているのが、工学です。

城南信用金庫と連携協定締結

本学は10月22日、城南信用金庫本店において「よい仕事おこしネットワーク実行委員会」(事務局長川本恭治理事)との包括連携協定締結式を行った。

同信用金庫とは既に「産学金連携協力」に関する協定書を締結しており、今回の協定締結はこれに次ぐものである。

また、同信用金庫は我が国を代表する産業集積地である大田区、品川区等の中堅・中小企業を主たる取引先としている。本研究科では、かかる産業集積地の中から授業におけるケーススタディ企業、中小企業診断士登録養成課程の実習における受診企業の紹介などが期待される。



締結式に出席した成田学長(右から2人目)と小田研究科長(右)

日本工業大学 学部 2021年度入試日程

Table with columns for exam type (e.g., 一般選抜入試A, 一般選抜入試B), application period, exam date, and exam venue.

- 【入試チェックポイント】
①特別入試奨学金給付! 1年目の授業料全額相当(98万円)または、半額相当(49万円)を免除! 昨年実績48名!
②入試奨学金20万円給付! 充実の奨学金制度。昨年実績323名!

本学で先端技術研究の取り組みを

Information regarding graduate school recruitment and research opportunities, including contact information for the Graduate School of Science and Technology.

日本工業大学 専門職大学院(大学院技術経営研究科技術経営専攻)

Information regarding the recruitment of the 17th cohort of the Graduate School of Professional Studies, including exam dates and application procedures.

# オンライン若杉祭開催報告

## ライブ動画、トークショー、作品展を配信

昨年には本学の大学祭「若杉祭」の通常開催が見送られ11月14日に「オンライン若杉祭」として開催された。事前収録された各イベント動画が特設サイトを通じて期間限定で配信された。

シンガーソングライターの幾田りらさんによる限定ワンマンLIVEが10月25日に宮代キャンパスで収録され、幾田さんは計7曲を熱唱した。LIVE収録前には本学大学祭実行委員会の矢口瑛久さんと島津隼人さんが、幾田さんを学内各所へ案内しながら、曲作りに対する想いなどについて話を聞いた。配信は11月14日16:00開始、11月15日00:00から17日23:59までアーカイブ配信が行われた。

事前に募集した学生からの質問に回答。最後にサイン色紙やCDが当たる抽選会も行われた。配信は11月14日19:00開始、同日23:59までアーカイブ配信が行われた。

本学の学生や教職員による作品を展示する「秀麗展」もオンラインで開催。通常開催同様に写真や絵画作品のほか、動画作品も募集。あわせて22作品の応募があり、特設サイトにて展示された。応募作品から、学長賞をはじめとする各賞が8作品選出された。

コロナ禍、大学祭開催を巡っては全国の大学が可能性を模索し、開催見送りとした大学も少なくない。本学においてもオンライン開催は初の試みであり、企画から実施まで手探り状態で進められた。学生と大学が一体となって協力し、一つのイベントとしてつくり上げ、学内外の多くの方に楽しんでいただけたことは大きな成果であり、双方にとって貴重な経験となった。



LCセンター前でライブを行う幾田さん

特設サイトのタイトル

i☆Risメンバー(山北さん、若井さん、澁谷さん)



学生が幾田さんにキャンパス内を紹介

オンライン秀麗展

学長賞受賞作品 i☆Risのサイン色紙やCDを抽選でプレゼント

### SDGs委員会発足

#### 20年間の環境活動実績をベースに 本学SDGs活動を支援・推進

近年、各種メディアにおいてSDGs(エス・ディー・エス・ジーズ)というキーワードが多くの目にするようになった。Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語で「持続可能な開発目標」を意味する。人間、社会、地球環境の持続可能な発展によって、よりよい世界の実現を目指す国際目標として、2015年の国連持続可能な開発サミットで採択されたものである。17のゴールと169のターゲットで構成さ

「地球上の誰一人取り残さない」との実現を誓い、2030年の目標達成に向け、各企業や団体等が積極的に発信・行動を起こしている。

本学においても昨年10月1日、学長直下の組織として「SDGs委員会」が発足した。これまで20年にわたって取り組んで来た環境保全活動(NITEMS II 日本工業大学環境マネジメントシステム)をSDGs達成の一つの要素と捉

「持続可能な開発目標」を意味する。人間、社会、地球環境の持続可能な発展によって、よりよい世界の実現を目指す国際目標として、2015年の国連持続可能な開発サミットで採択されたものである。17のゴールと169のターゲットで構成さ

## 皆様と歩む学生自治会

建築学部建築学科建築コース3年 淵上 晃介



新年あけましておめでとうございます。この度第53期中央執行委員会委員長に就任いたしました、淵上晃介と申します。学生自治会は今年で53期目となり、先代方がこれまで築き上げてきた学生自治会の代表として、名譽ある役職に就くことを大変嬉しく思います。

私が本学に入学してから早3年が経過しております。入学当初は新

しい環境に慣れずにはいられず、中央執行委員会の一員として活動していく中で学び、成長し、中央執行委員会委員長に就任することが出来ました。

最後にありますが、日本工業大学と学生自治会の一層の繁栄を祈念し、中央執行委員会委員長の就任挨拶とさせていただきます。

## 技術革新と卓越熟練技術

大学院技術経営研究科・教授 高篠 昭夫

専門職大学院だより

製造業の課題の一つに熟練技術・技能の後継者不足がある。この課題に対してIT技術を積極的に取り入れながら後継者の育成を図ろうとする動きがある。卓越熟練技術を形式知化したIT技術を導入することでこの技術を置換できるのか?その現状と可能性を探る機会として最近自動車会社の若手生産技術開発者達と意見交換の場をもった。

現在AIは品質検査を画像認識とAIで行う「金型の要所条件を監視し製造条件に反映す

## コロナ禍の授業 求められる変化

講義科目

未だに収束の兆しが見えないコロナ禍において本学教員は、遠隔授業対面授業を問わず従来と同様の教育成果を達成できるように日々試行錯誤を重ねている。今回は機械工学科の瀧澤英男教授の取組みを紹介する。

側面材質バラツキを感覚的に感じ取り鋼材の状態に合わせながら面粗度を作り出すという熟練技術のあることが開発のプロセスで明らかになった。

## コロナ禍の授業 求められる変化

実験科目

従来の授業では板書が中心であった(写真1)。遠隔授業においては、同じ内容をノートに書く様子を動画で配信する方式で対応(写真2)。動画は時間割と同時に配信

「地球上の誰一人取り残さない」との実現を誓い、2030年の目標達成に向け、各企業や団体等が積極的に発信・行動を起こしている。

## SDGs委員会発足

SDGs委員会

「地球上の誰一人取り残さない」との実現を誓い、2030年の目標達成に向け、各企業や団体等が積極的に発信・行動を起こしている。

「地球上の誰一人取り残さない」との実現を誓い、2030年の目標達成に向け、各企業や団体等が積極的に発信・行動を起こしている。



写真1: 板書



写真2: ノートを板書とした動画



写真3: 20人1班での実験



写真4: 人数を半分にした実験



不要な家具を新入生に提供する取組

情報発信や近隣地域を巻き込むコミュニケーションの役割を果たす。また、学生が企画するSDGs関連活動を支援、推進するプロジェクト的な委員会の機能も併せ持っている。

緒に就いたばかりの委員会であるが、これまで多くの成果を挙げた環境活動の実績をベースに、新たなSDGsの目標達成に向けた取り組みが行われていくものと期待される。

授業の形は大きく変わったが、教育内容に変化はない。受講課題取組み、提出には最低限のPCスキルが必要だが、学生たちは苦勞しつつも、実践的なスキル向上を果たしている。

# 小学生親子を対象とした出張科学教室



親子で簡易分光器を制作

第12回「親子でサイエンススクールin日本工業大学」が10月24日、キョクトウとちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）において開催された。共通教育学群の服部邦彦教授が講師として招かれ、小学生と保護者を対象とした工作指導を行った。

例年この企画は本学内で開催されており、工作教室のほかにも各学科の研究

今回のサイエンススクールには約20組の小学生親子が参加した。服部教授の指導のもと、「光のカクテル」と「虹を見える箱（簡易分光器）」を製作。この光をテーマにした授業の中で、サーモグラフィを用いた非接触温度測定を取り上げ、実機によるデモを行った。このほかに同教授は、「真空砲」を使った実験ショーを披露し小学生たちを驚かせた。

# 高校生が研究室を訪問 進路探究研究プログラム

栃木県立小山高等学校の生徒を対象とした「進路探究研究プログラム」が10月5・11月に本学で実施され、3日間あわせて17名の生徒が参加した。本プログラムは高校科目の一つ「総合的な探究の時間」に対応している。実施にあたってはマスクの着用、こまめな消毒、3密の回避といった感染防止対策に十分配慮しながら行われた。



佐野教授は顕微鏡の使い方を指導 画像認識を解説する新井教授

参加生徒たちは朝9時過ぎに入試室担当者から本学に関する説明を受けたあと、各々が希望する研究室を訪問。午前中は担当教員から学部・学科の紹介や研究内容の説明を受け、午後から実験や実習に取り組んだ。

今回は6名の教員がそれぞれの専門分野から魅力あるテーマを設定した（左表）。大学教員から直接指導が受けられたこと

# 駅周辺の活性化を目指す 暮らしの編集学校



講評を行う佐々木教授

東武動物公園駅周辺地域における優良品計画の社内研修「暮らしの編集学校」の最終発表会が11月6日、本学多目的講義棟において開催された。本学宮代キャンパスの最寄駅である同駅西口広場に今夏、無印良品と東武ストアが新規出店する予定である。これを機に両社員のほか東武鉄道、宮代町役場の職員も加わり、3チームに分かれて駅周辺地域活性化を目的とした新事業に関する企画提案を行った。各チームは地域の調査を行い、問題点を整理

し、解決のための企画を立案し、検証を重ねてまとめ上げた。企画の中には駅前広場でヤギを飼うというユニークなアイデアもあり、建築学科竹内宏俊研究室が別のプロジェクトで制作した仮設山羊小屋を利用するという提案が行われた。

本学地域連携センター長の佐々木誠教授（建築学科）は本プロジェクトに地域連携の立場から情報提供等の支援を行った。各班の発表後、佐々木教授は講評として「本プロジェクトは行政、地域住民、企業、本学が連携しながら豊かな暮らしを作り上げていく試みであり、これからの地域の在り方を提案するモデルとなる。宮代町と杉戸町の連携に繋がる提案をいただいた3班の皆さんに感謝を申し上げたい」と謝辞を述べた。

実施日	学科/担当教員	テーマ
10月20日	建築学科/三坂正教授	暑さ対策の基本と暑熱環境に適したまちづくり
	ロボティクス学科/秋元俊成教授	ロボットを使って絵を描こう
10月26日	機械工学科/竹内貞雄教授	多結晶ダイヤモンドを合成して観察しよう
	電気電子通信工学科/大田健祐助教授	音の分析・合成
11月16日	応用化学科/佐野健一教授	見えないものを見る科学
	情報メディア工学科/新井啓之教授	画像認識

# 宮代町のカボチャを使った作品コンテストを後援

本学キャンパスが所在する宮代町において、「顔の見える地産地消の食とエネルギーづくり」活動の一環として、同町で収穫されたカボチャを使ったオンラインイベント「ハロウィンカボチャ作品コンテスト」が実施された。

本コンテストについては、主催団体のNPO「再生可能エネルギー推進協会」の理事でもある佐藤茂夫名誉教授（ものづくり環境学科）からの

協力を要請に応じて本学が後援を行い、情報メディア工学科の小林桂子准教授が応募作品の審査を担当した。審査の結果、最優秀賞2点、優秀賞6点が選ばれた。



最優秀賞「カボチャファミリーの集い」

# 平成30年間の工業技術博物館記念講演会 工作機械製品・技術

工業技術博物館主催の第26回特別展・記念講演会が、シリーズ企画「平成時代30年間の工作機械技術を振り返る」の第2弾として、10月27日に開催された。今回のテーマは「平成30年間の日本の工作機械メーカー各社の製品・技術を振り返る」である。

学友会館での記念講演は、同博物館の清水伸二館長の司会・進行のもとに開催された。先ず、花木義麿後援会会長（オークマ㈱代表取締役会長）と、本学の柳澤章理事長が挨拶。その後、同博物館の丹治明講師から「平成30年間における日本の工作機械技術の変遷とその動向分析」と題して講演がなされた。特別展に参加した22社のデータの詳細な分析を基

と、高く評価された。特別展は、同博物館2階の特別展会場にて開催され、22社の平成30年間の製品と技術の変遷がパネル展示された。基本的な共通フォアワードでまとめられており、見やすいと好評であった。当日は、万全のコロナ感染対策のもとに実施され、コロナ禍にも拘らず64名の参加があり、無事終了した。なお、本特別展は3月末まで開催される予定である。

に、日本の工作機械産業が平成30年間に目指した技術目的・目標の体系的な整理とともに、それらを実現した要素技術が浮き彫りにされた。日本の工作機械産業の技術動向を共通のフォアワードで整理した、平成時代の貴重な工作機械技術史になる。



工作機械技術をテーマに講演する丹治講師



1年生はオンライン、オフラインで参加した

大学を訪れる機会が例年より少なくなっている。特に1年生にとっては教員や先輩、同級生とコミュニケーションを図りながら建築に対する興味を育む重要な時期である。この18時過ぎに生活環境デザイン実験棟（W2棟）1階のロビーに参加者が集合。建築家である非常勤講師がそれぞれ40分ほどにわたって自分の作品を大型モニターに映しながら建築の魅力や魅力を解説した。参加した1年生は大階段に座り、興味深く目を傾けていた。一部の学生はオンラインで参加した。

と、高く評価された。特別展は、同博物館2階の特別展会場にて開催され、22社の平成30年間の製品と技術の変遷がパネル展示された。基本的な共通フォアワードでまとめられており、見やすいと好評であった。当日は、万全のコロナ感染対策のもとに実施され、コロナ禍にも拘らず64名の参加があり、無事終了した。なお、本特別展は3月末まで開催される予定である。

# 1年生が教員、先輩と交流 建築トークイベント

11月11日と18日の2日「建築トークイベント」にわたり、建築学科において1年生を対象としたイベントが企画、開催された。

両日とも授業終了後の

# ビジネスプランコンテスト 社会問題解決のプランが多数入賞

11月2日、第15回ビジネスプランコンテストが学友会館ホールにて開催され、全375件の応募の中からファイナリストに選ばれた9組がプレゼンテーションを行った。グランプリとなる学長賞にはロボティクス学科3年姪間疾風さんの「マーケットプレイスを使った医療福祉機器のリユース販売」が選ばれた。観覧者からの投票結果で決定する「オーディエンス賞」は、機械工学科3年小平健太郎さんのプラン「VRによるスキー場の下見および観光案内システム」が選ばれた。

当日は高齢化やSDGs、ウィズコロナ時代の社会課題を解決するプランが多く、感染対策として100名の人数制限下ではあったが、学内外の観客は学生の熱のこもった発表を興味深く聞いていた。



学長賞を受賞した姪間さん



成田学長がトロフィーを授与



スキーウェアでプレゼンした小平さん

賞	受賞者名	プラン名
学長賞	姪間 疾風	マーケットプレイスを使った医療福祉機器のリユース販売
NITEC埼玉産学交流会賞	石橋 拓真 奈良 勇輝	Tapetum Eye Tracking System
川口信用金庫賞・オーディエンス賞	小平 健太郎	VRによるスキー場の下見及び観光案内システム
宮代町長賞	西井 あずさ	子どもに関わる「つなげる・つながる」を支援する事業
杉戸町長賞	野口 実由花	高齢者向けの「キャリア活用・趣味開拓の場」を提供するサービス
審査員特別賞	小笠原 来人	あなたの思い出を形に世代を超える次世代カードゲーム
産学連携起業教育センター長賞	荻 真央	LGBTのフォーマルウェア
優秀賞	高橋 恒洋	建築村を作ろう！
	佐々木 優	全てのBarと居酒屋を救って繋げ！オンラインBar！
	高野 航希	建築士資格をより身近なものにし、未来の建築士を増やそう！！
奨励賞	海老澤 秀斗	スマホアプリで商店街改革 ver. コロナ改革
	池田 至恩	個人塾のオンライン授業の支援アプリ
	上原 俊介	ライブハウス体験型WEBサイト
	小瀧 真	SNSを活用して共同購入をしたい人同士をつなげるサービス及び次世代型サブスクリプションサービス
	佐藤 匠	人の「価値観」や「考え方」を共有する新しいSNSアプリケーション
努力賞	吉田 伊織	学生のキャリア育成と就活をリンクさせる就活支援システム
	齋藤 佑太	試験片から材料モデルまで 材料モデル構築事業
	堀 圭佑	テスト特化型のプレス業界マッチングサービス
努力賞	辻 天羽	リモートワーカーの部屋に革命を
	齋藤 圭吉	学生同士だけの質問板

# 静電気学会 著作賞を受賞



機械工学科の桑原拓也「気学会主催の第44回静電気学会全国大会において、著作賞を受賞した。受賞書籍名は「船舶ディーゼルエンジンの排ガスの処理の新技术」。

近年、環境問題がクローズアップされている。そのうちのひとつとして、自動車や船舶のディーゼル排ガスによる有害物質が大気汚染の問題となっており、自動車の規制に続き、船舶に対しても国際的な規制が強化されている。ディーゼルエンジンの燃料はエネルギー密度が高い上、大きなトルクが得られる利点があり、広く普及している。有害物質の排出を制御できれば理想的な原動機となる。著書では、船舶ディーゼルエンジンの排ガス浄化に際し、その原理・方法を網羅的にまとめ、解説。新技术も紹介している。また、船舶排ガス浄化の現状分析や規制強化に向けた開発課題や目標なども書かれている点が高く評価された。

# 米国電気電子学会 最優秀論文賞を受賞



情報メディア工学科の勝間田仁教授(受賞時は准教授)が9月12日、米国電気電子学会(IEEE)の知能システムに関する国際会議において最優秀論文賞を受賞した。受賞論文名は「複数のスマートデバイスを活用した個人適応型学習環境」。

スマートデバイスとは、インターネットに接続でき、様々なアプリケーションを利用できるスマートフォンやタブレット型、メガネ型のスマートデバイスが普及する近未来の学習環境を想定しており、実現すべき設計課題を試作システムによる試用実験の結果から検証している点が高く評価された。

# 自転車ロードレースのプロツアー 経産大臣旗ロードチャンピオンシップに参戦

機械システム工学専攻の阿部航大さんが10月11日、地域密着型プロロードレースチームとして活躍している「さいたまディレーブ」の一員として、Jプロツアー第14戦経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップに参戦した。

今回のレースは、180キロという長丁場でありながら最終周回まで阿部さんが粘り、チーム最高の19位という好成績を残した。今後の阿部航大さんの活躍が期待される。



(c):Tatsuya.Sakamoto/STUDIO NOUTIS.



(c):Tatsuya.Sakamoto/STUDIO NOUTIS.

# 日本鉄鋼協会 奨励賞を受賞



環境共生システム学専攻博士前期課程2年(内田研究室)の渡邊知穂さんが10月13日、日本鉄鋼協会主催の第180回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて奨励賞を受賞した。受賞論文名は「高温多相平衡リン酸含有スラグ中のP(リン)バランス」。

日本は肥料や化学産業に必要なリン原料の全量を輸入に依存している。リンを含む国内での発生量が多い鉄鋼スラグ(※1)と下水スラッジ(※2)の発生する汚泥や各種工場などで発生する汚泥を有効利用する研究の認知度を向上の一助になればと思います」とコメントしている。

# 夏の思い出を英語で表現 絵葉書コンテスト



最優秀賞：北沢さんの作品

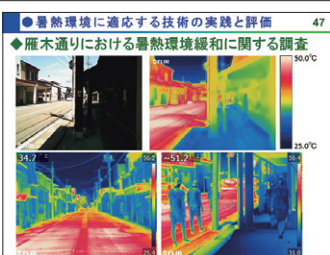
英語教育センターが8月12日〜9月28日に英語学修イベント「残暑お見舞いコンテスト」を開催した。本学では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの授業がオンラインで行われている。学生たちは日々の生活が制限され、夏休みも自由に謳歌できない状況が続いていた。

状況の中、学生たちに楽しみながら英語学修の機会を提供しようと企画された。参加学生は、この夏の出来事を英語で記し、写真や絵を添えて残暑お見舞いカードを制作した。応募作品は、どれも各学生の個性や英語学修の努力が伝わる力作揃いであった。同センターでは特に季節感のある優れた作品を選び、10月22日の授賞セレモニーにおいて表彰を行った。

# ヒートアイランド対策 技術公開セミナーで講演

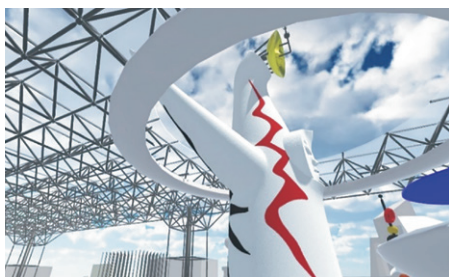
建築学科の三坂育正教授が11月11日、大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム主催の「ヒートアイランド対策技術公開セミナー」で講演した。参加無料のウェ

ブセミナーで、テーマは「暑熱環境に適応したまちづくりについて」。地球温暖化やヒートアイランド現象の進行で懸念される高温化社会に向けて、今後の暑熱環境に適応したまちづくりの在

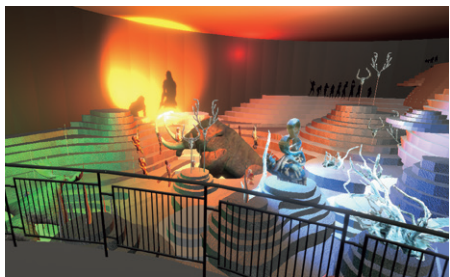


暑熱環境に適応する技術の実践と評価 47 ●熊本通りにける暑熱環境緩和に関する調査

# VRで再現した太陽の塔 岡本太郎美術館で公開



太陽の塔 外観



太陽の塔内部 地下空間の再現「ひとの空間」

情報工学科、情報メディア工学科の学生によって制作されたVR動画「蘇る!!バーチャルアリティ太陽の塔Ver.3」が11月21日から1月24日にかけて、岡本太郎美術館(神奈川県川崎市)とインターネットで一般公開されている。VR動画はGoogleを装着した視聴者が自由に視点を変えながら仮想現実の世界を楽しむことができる。一昨年夏に同美術館からの依頼で制作された作品「Ver.2」が大変好評であったため、昨年も依頼を受けて「Ver.3」が制作された。

24日にかけて、岡本太郎美術館(神奈川県川崎市)とインターネットで一般公開されている。VR動画はGoogleを装着した視聴者が自由に視点を変えながら仮想現実の世界を楽しむことができる。一昨年夏に同美術館からの依頼で制作された作品「Ver.2」が大変好評であったため、昨年も依頼を受けて「Ver.3」が制作された。

Ver.3は、70年大阪万博当時の「太陽の塔の外観」塔内部の生命の樹に加えて、太陽の塔の大きな「巨大地下空間」も再現。「いのち」ひと「いのり」の3つの部屋を持つ空間で、岡本太郎の壮大なイマジネーションが具現化されている。大山研究室4年生の鶴水幹也さん、高橋要さん、戸塚宏康さんが卒業研究として取り組み、鮮やかなコンピュータグラフィックスを制作。全編に同美術館学芸員の大杉浩司氏のナレーションや音楽が収録されている。

令和3年度大学入学者選抜からは、これまでの大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが実施される。本学は、当該テスト実施日1月16日・17日の試験会場となっており、前日15日から当日にかけて、関係者以外のキャンパスへの立入りが制限される。新型コロナウイルス感染症の予防対策に万全を期し、受験生を迎える体制を整える。

なお、本学では同試験の得点を合否判定に利用する共通テスト利用入試を実施する(日程は一面下部の表参照)。成績優秀者には、入試奨学金20万円が給付される。募集要項、インターネット出願については本学ウェブサイトで確認いただきたい。

型コロナウイルス感染症の予防対策に万全を期し、受験生を迎える体制を整える。

【退職】(12月31日付) 岩佐勝頼職員(就職支援課)

人事異動



ダイニングホールのアクリル製パーティション



ダイニングホール入口の非接触検温器

ダイニングホールのアクリル製パーティション

ダイニングホール入口の非接触検温器